

編集長 : 塩澤諒子
編集委員 : 石井宏典 蛭灰谷愛 平岡性
増田圭輔 矢原有理 ジャック・ファリス

修士論文佳境へ 論文生活真っ只中のM2 6名にインタビュー

text_kakibaya

2月6日の修士論文提出、同月13日の発表を控え、修士2年は年末もお正月も関係なく(?)、どっぷりと論文生活を過ごされていたようです。1月下旬、忙しい合間を縫って6名のM2にインタビューにお答えいただきました。

10階では1日おきに交互にソファで寝泊まりしている(同時に泊まると寝にくい)というM2伊藤&ポンサンに話を聞いた。

Q. 生活サイクルは?

-1月になって、2日に1回は泊まるようになった。でも平均すれば6時間くらいは寝ているのでは。

Q. 食事は?

-昼夜夜の1日3食。炊飯器やみかん、お菓子などで食生活の充実化を図っている。



ご飯の時間が楽しい!

Q. 論文生活が変わったことは?

-太った (by伊藤)。

-洗濯が大変。天気をチェックしてから帰宅することになっている (byポンサン)。

Q. 論文が終わった後は?

-山にこもってスキー (by伊藤)。

-寝る。しばらくwordは見たくない (byポンサン)。



交互に就寝するイメージ

自宅にこもって執筆していたのはM2石井。1月分の電気・ガス代の請求額を見て、実家から電話がかかってきたそうです。

Q. 生活サイクルは?

-12時には作業を打ち切る。精神の平安を心がける。リラックスのため1日に2回も3回も風呂に入る。

論文が終わった後は?の問いに唯一、「もっと研究がしたい」と答えたのはM2横田。

Q. 食事はどこで?

-コンビニや弁当屋。たまに東京駅まで出てリッチに。

Q. 論文生活が変わったことは?

-学校に来る回数が増え、机周りの環境が整った。

「喜多方・まちづくり塾メンバーに会いたい」
by横田

とにかくコピー&スキャン地獄だったと語るのはM2塩澤。

Q. お正月は?

-1日の朝に帰省し、親戚とお節を食べた後、トンボ帰り。

Q. この1ヶ月の過ごし方は?

-あちこちの図書館めぐりで資料発掘、とにかくコピー、コピー、コピー... ほぼ気分は明治・大正にワープ。食事の時だけ10Fに集合して皆でご飯。炊いたご飯がおいしかった!

Q. 論文生活が変わったことは?

-おそらく見えないところで栄養不足が祟っているのでは...

最後は元日午前から学校で作業をしていたというM2筒井。

Q. 今のテンションは?

-そんなに悪くない。余計なことは考えなくなったかな。

Q. 論文が終わった後は?

-旅行に行きたい。ゆっくりしたい。



M2の皆さん、お忙しい中ご協力ありがとうございました!

岡村D、博士論文審査会

02 中島伸

去る1月11日14号館802号室にて、9階の主、岡村祐さんが博士論文審査会に臨まれました。これには都市デザイン研究室メンバーが多く駆けつけるだけでなく、OG窪田亜矢先生、OB鳥海基樹両先生も駆けつけられ、会場はいつも以上に熱気に包まれていました。

論文題目は岡村Dがこれまで暖めてきた渾身のテーマ「我が国における眺望景観の保全計画に関する研究」。今後の景観計画に新たな可能性を切り開くべく、提示した「眺望景観」という概念・系譜の整理と今後の可能性について、多いに熱弁を奮われました。教授陣との白熱した議論を

終えた岡村Dは、さらに論文修正へ余念が無く、今も不眠不休の努力をされているとか。岡村Dの自分の研究の完成への飽くなき姿勢に、近い将来の自分の姿を思うとこちらも身の引き締まる思いになるのでした。岡村さん、お疲れ様でした!!!



1月20日、我らが中島直人助教が結婚式を挙げられました。こだわりの式場について、幸せいっぱいのお二人のお姿について…。野原助教の寄稿でお楽しみください。

Happy Wedding

結婚式という名の交差点 -優しさに包まれた明日館より-

助教 野原卓

初めて足を踏み入れた自由学園明日館。水平に伸びながら空間を優しく包み込むウィングと、天に向かってまっすぐと伸びるガラス窓の鈍い輝きが交差する前庭から始まる。

「フランク・ロイド・ライトという人は、空間を縦に使う操作が得意な人でした。彼の設計では大体入口部分が狭くなっていて…」、西村先生のご挨拶で口火を切った、披露宴。この日の主演は、その低い入口から突如縦にも横にも広がるこの会場*1を十分に満たす存在感をもって登場した。明日館が電気グルーブで包まれるのは、後にも先にもこの日一日なのではあるまいか。さすが、直人流。

そして、マイクを持った彼は、式場を選んだ理由をこう話した。「この会場のスケール、つまり、狭さです。」そう、彼は、参列する方々と自分たちが同じ空気を共有し、そして参列者同士の心が重なり合うには、この「狭さ」が大切だからとこの地を選んだのだ。そんな心優しいヤツなのである。

西村先生にこれまでの輝かしい業績を披露されても、北沢教授の乾杯で、酒癖の悪さ(?)を暴露されても、眉一つ動かさない、この男、堂々につき。

会は続く。お二人の幼少から現在への紹介映像。中島助教も私も学生であった頃の画像と、今、私の目の前に毅然と座るその姿が交差する。新郎新婦のご友人の温かいスピーチ、新婦のご友人の空手演舞「板割り」(大切なのは「いたわり」です)…、とにかく言えることは、直人氏の今まで見たこともないような笑顔と、二人の門出を祝う参列者の笑顔で、会場は満たされていたということだ。ガラス窓からこもれる光がとても優しくかった。

きっと、最初で(そしておそらく最後で)あろうこの日は、スタートでもゴールでもなく、「交差点」なのかもしれない。今まで通り、自然体でこのまま前に進むもよし、この日を境に気を入れ替えて新たな道を進むもよし。違うことがあるとすれば、これからは、今まで以上に道選びを二人「協働」で進めてゆくということだけ。新郎の強さと新婦の優しさの交差したあの日から、そして、水平の広がりとも垂直の高みが交差するこの「部屋」*2から。お二人とも、末永くお幸せに。これからは、まちも身体も家庭も大事にね。

(P.S. なんとなく、ユーミンの「優しさに包まれたなら」を頭に浮かべながら読むと、なお効果的です。)

- *1 旧食堂
- *2 旧ホール

披露宴にて都市工メンパーとご結婚おめでとうございます！



祝辞を述べられる西村先生、北沢先生



自由学園明日館



1921(大正10)年、フランク・ロイド・ライトの設計により建設。高さを抑えたプレイリースタイル(草原様式)の手法で、中央棟を中心に各部屋はゆるやかにつながっている。現在は国の重要文化財の指定を受けている。

雪が彩る越中街道へ 第2回訪高

M1 大道亮

1月15,16日、高山へ行ってきました。今回の目的は中間発表と追加調査です。豪雪地帯のイメージがある高山ですが、気温こそ低いものの雪はさほどでもなく、順調に(?)目的を遂行できました。

特に初日の夕方に行われた越中街道街並み保存会の方々への中間発表では調査・提案共に概ね好評で、最終提案へ向けての弾みとなりました。翌日は雪が降

りしき中、伝統的建造物のお宅を訪問し、簡単なヒアリングと平面の調査をしました。屏風や絵画、彫刻などを日常的に飾っているお宅が多く、非常に文化的な住まい方をされていることに驚かされました。

次回、今年度最後の訪高は3月2~4日を予定しています。



編集後記

text_kakibaya

あけましておめでとうございます。「今年(は)も勤勉な年にしよう!」と、元日に研究室に行ったのはいいものの、翌日から5日までたっぷりとお正月休みを満喫した私です。M2の方々の論文生活をかき見ても、1年後の自分に対して身の引き締まる思いがしました。みなさん夜中にこぞってスキャンをしに9階にいらっしゃるのは、頭のリフレッシュのためもあったんですね。ちなみに、明日館(@豊島区)は新宿区景観ガイドブック 落合第一地区にも一瞬登場しますよ。ちょっと宣伝してみました。中島さん、おめでとうございます☆